NPO法人 国際芸術家センター（IAC） 会報

風流

第八号

二〇〇九年一月一日 発行

題字背景●IAC「世界の民族芸術シリーズ」（コーリ族手団：イタリア）

武家茶・花火・交響曲を通して 世界が手をつなぎ 核兵器の廃絶を

広島市長 秋葉 忠利

昨年9月2日に、我が国で初めてのG8下院議長会議が広島市で開催されました。河野衆議院議長の肝煎りで広島開催が決ったのですが、河野議長のリーダーシップが遺憾なく発揮され、多くの皆さんからは「大成功だった」との声を頂いています。欧州議会の副議長も加わって9人になった議長さんたち一行には、前日の9月1日に東京から広島に到着後、分刻みのスケジュールをこなして頂きましたが、その中で特に印象的だった出来事が幾つかあります。

先ず、2日の朝一番に平和記念公園の慰霊碑に献花をして頂いたのですが、その後、資料館に移動しようという時間になると、自然な形で議長さんたちが横一列に並び手をつないで慰霊碑に向かわれました。このような形で9人が揃って祈りと決意を捧げてくれたことに、多くの市民が深い感動を覚えました。その場に居合わせることができたことを私自身、光栄に思いましたし、議長さんたちの気持が必ずや被爆者の願いを実現する上での大きな力になることを確信しました。

二つ目は、議長さんたちを歓迎するコンサートが素晴らしかったことです。議長さんたちには、第2部のモーツァルトによるバイオリン協奏曲第5番を聴いて頂きました。秋山和慶さん指揮の広島交響楽団の演奏でソリストは岡崎慶輔さんでした。その後に、第3部として広島出身の被爆二世で全聾の作曲家・佐村河内守さんの「交響曲第一番」を同じく秋山さん指揮、広響の演奏で初演しました。因みに第一部は大瀧賢一郎さんの独唱です。広響の育ての親でもあり、今回のコンサートにも一方ならぬ御貢献をして頂いた秋山和慶さんに広島市は、2008年（平成20年）11月、広島市民賞をお贈りしました。

佐村河内さんは高校時代からすさまじい偏頭痛に悩まされ、20代で聴覚異常を発症、35歳のとき一切の聴覚を失いました。抑うつ神経症、不安神経症といった重度の神経障害の他に、頭鳴症や耳鳴り発作など、止むことのない壮絶な肉体的かつ精神的な苦痛の闇にいながら、佐村河内さんは、日々音楽を紡ぎ出しています。17歳のときから約20年掛けて完成させたこの「交響曲第一番」は佐村河内さんが自らの生と原爆の闇とを重ね合わせながら書き上げた作品であり、その初演に当って、佐村河内さんは「核兵器の廃絶に向けて祈るだけでなく、被爆体験を次の世代に継承していくことが重要である。」というメッセージを発信しています。こうした佐村河内さんの功績に対して、広島市は2008年（平成20年）11月に市民賞をお贈りしました。

三つ目は、広島到着直後、広島に400年伝わる上田宗固流のお点前を楽しんで頂いたことです。実は、空港からのバスが早く着き過ぎて、次のコンサートまでの時間調整が必要になりましたが、その時間が、上田流第16代家元である宗岡宗匠のお心遣いと深い知識によって議長さんたちには寛ぎの一刻になり、広島市民の気持に心を開く準備が整うことになったというエピソードが隠されていました。

宗岡宗匠には、広島市の姉妹都市であるドイツのハノーバー市をはじめ、世界中に武家茶を広めて頂いているだけではなく、広島市の文化や芸術振興のために例えば「広島ブランド推進委員会」の委員長として御活躍頂く等の貢献をして頂いています。こうした功績に対して、佐村河内氏と同じく、昨年の11月に市民賞をお贈りしました。

この機会に、広島市がお贈りしている大切な賞の受賞者もうお一人についても御紹介させて頂きたいと思います。

現代美術の分野で人類の平和に最も貢献した現代作家に3年に一度、ヒロシマ賞をお贈りしています。その第7回受賞者が中国の現代美術作家・蔡國強（ツァイ・グオチャン）さんです。2008年（平成20年）10月から広島市現代美術館で、記念のための蔡國強展を開催しました。そのオープニングにあわせ、ヒロシマについて考えるための企画として、過去の広島の惨禍に対する鎮魂、現在の世界の核の状況への警鐘、未来に続く平和への願いを込めて、黒色花火プロジェクトを実施しました。元々中国で発明された火薬は、花火や爆竹として祝賀の意味を込めて利用されてきたのですが、西洋で「再発明」された火薬は、武器として戦争に使われるようになったという歴史的事実も踏まえてのイベントです。

被爆者の願いである「こんな思いを他の誰にもさせてはならない」という和解の哲学を世界に伝え、核兵器の廃絶を実現する上でも、こうした芸術的な活動を通して、広島と世界がつながって行くことが益々大切になってきています。そして、今年2009年（平成21年）には、広島に新しい野球場が誕生します。芸術に加え、スポーツを通じてさらに平和のメッセージが広まる年になることを期待しています。

「日本におけるカザフスタン文化フェスティバル」を記念して2つのコンサート

中央アジアには、「スタン（国や土地の意味）」の名がつく国々があります。IAC「世界の民族芸術シリーズ」で紹介する最初の中央アジアの国は、12月6日に公演を開催したカザフスタンでした。カザフスタン側にとっても「日本におけるカザフスタン文化フェスティバル」の初回で、民族オーケストラ〝オティラルサジ〟（目黒区パーシモンホールで公演）と国立管弦楽団〝カメラータ・カザフスタン〟（フジテレビはちたまで公演）という国を代表する2つの団が選ばれて来日を果たしました。

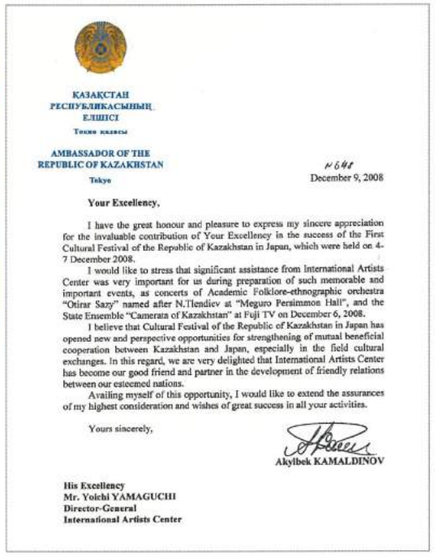
本番当日までなかなか詳細が入らず、準備に苦労したこともあり、幕が上がると両舞台の想像以上の質の高さには、大使館と共催したIAC自身が驚きました。今までのIAC主催の公演と比べても熱のこもった記述が目立つ観客の皆さんのアンケートからも、2つのコンサートにどれほど魅了されたか伝わってきました。

ここにそれぞれの公演を鑑賞いただいたお二人の感想を紹介します。会員の藤倉明治さんからは、パーシモンホールのオティラルサジについて民族楽器を中心にした感想です。また、カメラータ・カザフスタンのコンサートについては、会場となったフジテレビのCSR推進部長の池貝真さんからいただきました。

この2つのコンサートの成功は、一緒にこの事業を盛り上げてくださった目黒区、フジテレビの関係者の皆さんのご協力があってこそです。「日本におけるカザフスタン文化フェスティバル」がこれからも継続できるようにIACは協力したいと考えております。今回のご支援に引き続き、さらに多くの方たちがこれからもIACの文化交流事業を応援してくださることを願っています。

写真（上3点）：© エー・アイ　山口雪乃

挨拶するカザフスタン文化情報大臣
クル・ムハメド氏
写真：© エー・アイ　檜山貴司



KAZAKSTAN
REPUBLIKASYNYŃ
ELÍSI
Токио елчісі
AMBASSADOR OF THE
REPUBLIC OF KAZAKHSTAN
Tokyo

№ 644
December 9, 2008

Your Excellency,

I have the great honour and pleasure to express my sincere appreciation for the invaluable contribution of Your Excellency in the success of the First Cultural Festival of the Republic of Kazakhstan in Japan, which were held on 4-7 December 2008.

I would like to stress that significant assistance from International Artists Center was very important for us during preparation of such memorable and important events, as concerts of Academic Folklore-ethnographic orchestra "Otirar Sazy" named after N.Tlendiev at "Meguro Persimmon Hall", and the State Ensemble "Camerata of Kazakhstan" at Fuji TV on December 6, 2008.

I believe that Cultural Festival of the Republic of Kazakhstan in Japan has opened new and perspective opportunities for strengthening of mutual beneficial cooperation between Kazakhstan and Japan, especially in the field cultural exchanges. In this regard, we are very delighted that International Artists Center has become our good friend and partner in the development of friendly relations between our esteemed nations.

Availing myself of this opportunity, I would like to extend the assurances of my highest consideration and wishes of great success in all your activities.

Yours sincerely,

Akylbek KAMALDINOV

His Excellency
Mr. Yoichi YAMAGUCHI
Director-General
International Artists Center

カザフスタン共和国特命全権大使：アクルベク・アブサトウリ・カマルディノフ閣下から IAC へのメッセージ
今回の協力に対する感謝と今後も一緒に文化交流を継続したいというご要望もいただいた。

カザフスタン 大草原からの民族楽器と演奏家たち

コビス
ドンブラ
シビズギ
ジャス・シルマイ

カザフスタンは中央アジアの中ほど、遊牧民が駆け巡った草原の広がる大きな国だ。日本の7倍もある。地図をみると西はカスピ海、東はモンゴルや中国、北はロシア、南は絹の道のウズベキスタンやキルギス諸国に囲まれている。この国にはイスラム・スンニ派のカザフ人の他に、ロシア系、ウクライナ系、ウズベク系など多くの民族が住んでいるが、宗教や民族間の争いのない平和な国だ。そこからやってきたオティラルサジという名の民族音楽アンサンブルが東京で公演するという。カザフスタンには独特の楽器が数多い。初めて見る楽器との出会いを楽しみに聴きにいった。

演奏が始まってまっ先に興味を惹かれたのは、独特の形の伝統楽器だ。アンサンブルの左側にはドンブラと呼ばれる2弦の弦楽器が並び、右側にはハート型の胴をもったコビスという弓で弾く楽器が並ぶ。中央には土笛のジャス・シルマイ、と縦笛のシビズギ。そして奥の方に大きなバス・ドンブラと太鼓という編成だ。色鮮やかな民族衣装をまとった男女の楽団員。端正な容貌の女性が多い。一時間つづけさまに演奏された音楽は、まさに「大草原と遊牧民と馬」という伝統を感じさせるリズムと旋律だった。そして洗練されていた。

さて、楽器をくわしくみてみよう。コビスはメガネのような不思議な形の胴をもった2弦の弓奏楽器だ。馬の尻尾の黒い毛を束ねた弦が張ってある。やさしい柔らかな音色の楽器だ。座って両膝の間にはさんで立てて演奏する。コビスの特徴は弦と棹の間が大きく離れているので、宙に浮いた弦を左手爪を押しつけて演奏する。改良型のコビスもある。バイオリンの胴をさかさまにしたような格好で、これは4弦だ。伝統コビスと同じく爪で弦を横に押して演奏する。音色はバイオリンと同じといっていい。2弦の撥弦楽器、ドンブラもカザフスタンの代表的伝統楽器だ。マンドリンのように胴は楕円形でその下側は膨らんでいる。ロシアにはドムラという弦楽器があるが、ドンブラはその祖先だといわれている。その他に、オカリナに似た土笛のジャス・シルマイの明るい音色。葦で作った長い縦笛のシビズギ。ブルガリアの笛カバルの仲間だろう。日本の尺八の仲間でもある。

これらの楽器の他にもう一つ圧倒されたのは歌だった。「声」という楽器だ。男性の歌手も女性も声量の大きさと澄んだ声色と伸びがとりわけ印象的で、天空に吸い込まれることなく、どこまでも大草原に響き渡っていきそうな声だった。広大な土地で育ったからこその声なのだろうと思う。公演の演目に「千の風になって」や「赤とんぼ」の演奏や歌があった。友好の印だろう。心地よかった。

写真と文：藤倉明治（IAC会員）

ジャス・シルマイ

シビズギ

ドンブラ

伝統コビス

改良型コビス

藤倉さんのブログ「楽器地球儀」　http://www004.upp.so-net.ne.jp/amfujikura/

国際文化交流って意外に…

フジテレビ「はちたま」でのコンサート。
バイオリンのソロ演奏は、カメラータ・カザフスタンの創設者で芸術監督のムルザベコワさん

写真：© エー・アイ　山口雪乃

「国際芸術家センターからCSR担当の方へお電話です。」今回のご縁は、取り次がれた一本の飛び込み電話から始まりました。伺えば、カザフスタン共和国から、自国の文化を日本に紹介するため音楽イベントを開催したいというご相談を受けたものの、会場の手配に目途がつかないので、会場を貸して欲しいという内容。時は2008年9月半ば。確かに、12月のコンサート会場を押えるのは難航必至。戸惑っていると「CSR活動を広報するフジテレビのホームページ（http://www.fujitv.co.jp/csr）を見て、社会貢献に前向きだと拝察しました。」とのお言葉が。とりあえずお会いした電話の声の主、金屋事務局長と川崎事務局次長は、「普段はニュースになりにくい国が自国の文化を紹介しようとしても、なかなか相談に乗ってくれる機関や施設がないので、NPOに話が持ち込まれる。充分な準備期間や詳細な実施要領がない場合が殆どだが、それをまとめることこそが国際文化交流の醍醐味。今回は特に時間がなく、突然のお願いに来ました。」と、フジテレビに辿り着いた理由を力説。お二人の真摯さに、協力できることを探ることにいたしました。フジテレビの社屋の真ん中に着いている球体「はちたま」は、番組収録もできる多目的ホールで、普段は、一般の方々に東京の景色を一望していただける展望室になっています。10月から、この場所を催事場として公開・利用していただく事業を社内で準備しているところでした。下見・検討の結果、「はちたま」にいらっしゃる一般の方々にも参加いただけるよう、開館時間内に開催することも、定。その中で、約20人の室内弦楽合奏団が演奏することも、多くの招待客が着席できるようにすることも初体験。満員となった当日の会場では、カメラータ・カザフスタンの演奏するクラシック楽曲や民俗音楽に、大喝采が起こりました。更に、カザフスタン共和国文化情報大臣によるお日本語のご挨拶で、会場は心温まる空気で一杯になり、カザフスタン共和国との距離が縮まる素晴らしいイベントになりました。国際文化交流って、上手に出来上がるときは、意外にこんな風にできるものなのかもしれません。大したお手伝いは適いませんでしたが、社会貢献に前向きなフジテレビということになれたでしょうか。

フジテレビジョン　CSR推進部　部長　池貝　真

カザフスタン文化フェスティバルについて
(Japan Times, 2008.10.14)

News and Notes

Kazakh Cultural Festival

The Embassy of the Republic of Kazakhstan in Japan will hold "Kazakhstan's Cultural Festival in Japan" from Dec. 5 to 8.

The main feature of the four-day event will be a gala concert, from 7 p.m. to 8:30 p.m. on Sunday, Dec. 7, at the Suntory Hall in Roppongi.

Some of the country's best musicians — the Otirar Sazy folk orchestra and the Camerata of Kazakhstan state orchestra — will perform with famous Kazakh opera singer Nurzhamal Usenbayeva and flutist and singer Edil Kusainov. Kazakh traditional instruments such as the dombra, a long-necked stringed instrument, and the kobyz, a stringed instrument played with a bow, will be featured at the concert.

There will be two local concerts Dec. 6, at Meguro Persimmon Hall, from 10 a.m. to 11 a.m., by Otirar Sazy, and at the Hachitama observatory of Fuji TV's headquarters, from 4:30 p.m. to 5:30 p.m., by Camerata of Kazakhstan.

Also, there's be an exhibition of some of the best pieces of Kazakh art and historical heritage at Betesalle Roppongi, from 9 a.m. to 6 p.m., between Dec. 5 and 7.

All the events are free, but prior reservations are required. Call (03) 3791-5275 between 4:30 p.m. and 5:30 p.m., fax (03) 3791-5279 or e-mail for jpdiplomemb@gmail.com for more details and tickets.

Venue access:

Suntory Hall — a five-minute walk from Exit 3 of Roppongi Station

Tokyo Toyoko Line Hachitama (Fuji TV headquarters) — a three-minute walk from Daiba Station; five-minute walk from Teleport Station

Betesalle Roppongi — a two-minute walk from Exit 2 of Roppongi Station

浦山の獅子舞調査と秩父夜祭り見学会

写真：藤田一郎

写真：並木 孝

日本民族舞踊団制作室では、10月26日に秩父市「浦山の獅子舞」の現地調査を行った。これは昨年に続く2回目の調査で、秩父から中川芳和、前橋から藤田一郎、松村尚志の3名が参加した。前回の調査で昌安寺での「大狂い」、道行き、浦山大日堂での「剣懸り」、部落の家々を廻る「悪魔払い」など1日の行事をほぼ記録に取っているので、今年は浦山大日堂での祈祷とその中に組み込まれている獅子舞（剣懸り）を、堂右手の高い石垣の上でビデオカメラを据え付けのまま回して撮影し、一連の流れを俯瞰的に眺められる資料を得ることを主目的とし、2クールを続けて収録した。

切れ味鋭い激しい舞

大日堂での祈祷は、笛・大太鼓・祈祷発願者の群れ・獅子（3頭または6頭）の順に行列を組み、堂を3回廻る。獅子が堂の正面に来たときに、雄獅子は1頭ずつ堂前の庇の下に走り込み、鋭い動きで激しく舞ってサッと次の獅子と交替する。これはおそらく大日堂での「剣懸り」でしか演じられないものだと思う。ゆるやかに舞う獅子舞が多い中で、この動きは大日堂の獅子舞を特徴づける、際立ったものと云えよう。これを舞台化した踊りの中に取り入れられれば面白いと考えつつ、赤く色付いた柿の実の中の道をぬけて帰途についた。

（担当理事・松村尚志）

華麗な屋台に寄せる人波

12月3日、快晴の秩父路を規制が緩いうちに車で走り、昼近く上町の木崎氏宅に着く。木崎氏は今年上町屋台の警備主任とのことで、きらびやかな祭り衣装。木崎家恒例のおでんと自然薯のお好み焼きで美味しい日本酒をいただく。食事がすんだところで木崎氏の案内で街に繰り出す。上町屋台は夜の曳き廻しに備えて雪洞を取り付ける作業に追われ、各町の屋台も夜の準備に忙しそう。どんどん増える人波を分けて秩父神社に至る。参拝し、「つなぎの龍（左甚五郎作と伝えられる）」などを見学、露店が櫛比する狭隘な路を歩き団子坂からお旅所に入る。夜の9時には6基の屋台がここに勢揃いする。

階上から屋台を見て豪商の気分

夜は中川氏の案内。すごい人出で屋台を見るのも追うのも大変、と中川氏は懇意にしている「近亀時計店」という大店に我々を招き入れ、3階のベランダから明るく灯に包まれた屋台を眼前に見ることになる。江戸時代、秩父絹を扱う地元の商人たちは祭りに取引先の商人を招き、華やかに飾り付けた2階座敷で歓待し、1年の取引を決めたという。その豪商の気分を味わった。

花火の打ち上げが始まり、西武秩父駅近くのビルの屋上に移る。前は頭上に開く花火と腹に応える破裂音、後ろは団子坂を登る屋台の灯と太鼓、両方を見聞き出来る最高の場所である。5700発の花火が終わり、お旅所で半円形に並んだ6基の屋台の上で演じられる童女の処作事を見て木崎・中川両宿所に戻る。今回の見学会参加は東京から飯田邦生、石本ひろみ、並木孝・ひろ子、秩父の木崎一男・富美子、中川芳和・とし子の8名であった。

（IAC会員・並木孝）

広告

当アカデミー生が
国際コンクールに入賞しています

**東京インターナショナル
バレエアカデミー**

主宰：エマ・プリャーニチニコワ
（元ボリショイバレエ学校教師）

〒140-0004 品川区南品川 5-11-37
TEL：070-5452-0690, 03-5443-2754
E-メール：info@ballet-academy.jp
www.ballet-academy.jp

事務局便り

▶「アラスカ・デー」（アラスカがアメリカ領になった記念日のフェスティバルでロシア領時代の首都シトカで毎年10月に開催）の日程に合わせ、今年もIAC会員のヴァイオリニストの藤田めぐみさん、後藤環さん、バレエ教師/振付家の世良留実さんが現地を訪問しました。ワークショップ、振付指導と舞台の共同制作、公演、ジュノーオーケストラへの賛助出演など、多彩なプログラムは現地の皆さんの協力でどれも成功裡に終えた、との報告を受けました。4年目を迎えたこの文化交流はシトカにそしてアラスカ州都ジュノーにしっかりと根づきつつあり、毎年、アラスカとIACの両者が心待ちにしている事業となっています。

▶「世界の祭り」を現地で体験しませんか？　舞台に出演する方でなくても、IAC独自の文化交流のルートで、各国へのお祭りツアーも企画できます。今まで風流でも紹介しましたエストニアやアラスカだけでなく、イタリア、ポルトガルなど、皆さんに紹介したい祭りが各地にあります。12月に公演をしたカザフスタンでは、3月21日がナウルーズという新年の祝いで民族舞踊や音楽で盛り上がるそうです。事務局へのご連絡をお待ちしています。

（理事・事務局長　金屋輝美）

Sitka, Alaska　Tuesday, October 14, 2008　8 Pages

Stepping Up

Japanese dancer Rumi Sera performs with violinists Megumi Fujita and Tamaki Gato at the Sheet'Ka Kwan Nee Kaadi during the Monthly Grand talent show. The Tokyo artists also performed on Sunday at Centennial Hall. They will take part in the Alaska Exchange Performance Wednesday at Centennial Hall which also includes music by the SitKiha. (Sentinel Photo by James Poulson)

IACの文化使節によるパフォーマンスを紹介するアラスカの新聞

（Daily Sitka Sentinel 2007.10.14）

IAC会報「風流」第八号　2009（平成21）年1月1日発行　（年4回、1・4・7・10月発行）

発行：NPO法人国際芸術家センター（IAC）　編集：「風流」編集部　〒156-0051　東京都世田谷区宮坂3-20-10-206　TEL：03-5426-2047　FAX：03-5426-2048
E-mail：iactokyo@d1.dion.ne.jp　http://www.d1.dion.ne.jp/~iactokyo/